



報道発表

平成 28 年 5 月 19 日

イノベーション京都 2016 投資事業有限責任組合の投資について

京都大学イノベーションキャピタル株式会社（以下「京都 iCAP」）（本社：京都市左京区、代表取締役：樋口 修司）を無限責任組合員とするイノベーション京都 2016 投資事業有限責任組合（以下「KYOTO-iCAP1 号ファンド」）は、京都大学の研究成果を活用したベンチャー企業に対する投資第一弾として、株式会社 AFI テクノロジー（以下「AFI」）に対する投資を実行するとともに、株式会社京都創薬研究所（以下「KDDD」）及び株式会社幹細胞&デバイス研究所（以下「SCAD」）に対する投資を決定いたしました。

○株式会社 AFI テクノロジー（AFI）への投資実行について

AFI は、京都大学医学研究科乳腺外科（戸井雅和教授）との共同研究において開発した基盤技術をもとに、細胞産業と微生物検査産業をターゲットに「電気計測とマイクロ流路技術」を用いて、ラベルフリーで迅速な細胞・微生物の分離・精製を行う機器・デバイスを開発・販売する企業です。

再生医療の産業化には、ラベルフリーでの目的細胞の迅速な分離が必要であるという AFI のビジョンは共感できるもので、AFI の技術が将来的に再生医療の産業化を後押しすることが期待できます。また、AFI のデバイスに対して、細胞を扱う多様な分野の研究者から関心が寄せられており、「大学発ベンチャーが大学の研究成果の事業化を試みることでさらにアカデミアでの研究が加速する」という好循環を生み出すことが期待できます。

京都 iCAP ではこれらを評価し、AFI の 5 月 18 日を払込期限とした総額 2.5 億円のシリーズ A 第三者割当増資に、大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社（本社：大阪府吹田市、代表取締役社長：松見芳男）、みなとキャピタル株式会社（本社：神戸市中央区、代表取締役社長：庵原 敬吾）、みやこキャピタル株式会社（本社：京都市左京区、代表取締役社長：山口 哲史）とともに応じ、リードインベスターとして 1.4 億円の投資を実行しました。

なお、官民イノベーションプログラム(国立大学に対する出資事業)により創設された、国立大学法人の子会社ベンチャーキャピタル同士が、同一の企業に対して協調して投資を実行したのは今回が初めてとなります。



株式会社 AFI テクノロジー 会社概要

設立	平成 25 年 5 月
事業内容	電気計測とマイクロ流路技術を用いた細胞・微生物の分離・精製機器の 開発・販売
本社所在地	京都市上京区
代表取締役	円城寺 隆治

○株式会社京都創薬研究所 (KDDD) への投資決定について

KDDD は、京都大学生命科学研究科 (垣塚彰教授)、京都大学医学研究科眼科学教室 (吉村長久特命教授) および京都大学医学部附属病院臨床研究総合センター (池田華子准教授、元眼科学教室助教) が開発した新規低分子化合物 KUS 剤を用いて、網膜中心動脈閉塞症、網膜色素変性症といった希少疾患に加え、緑内障等の眼難治疾患の新規治療薬を開発する企業です。

KUS 剤は、細胞内 ATP を消費する蛋白質 (ATPase) の一つである VCP の ATP 消費を抑えて細胞の変性・死滅を予防・抑制するという新規薬理作用を持ちます。動物実験において、網膜神経節細胞・視神経線維に保護的に作用し、緑内障の進行を抑制する効果があることが確認されました。緑内障は国内の視覚障害要因第 1 位の原因疾患で、現在は眼圧を下げるのが唯一の治療法ですが、新しいメカニズムで薬効が期待できる KUS 剤は、アンメットメディカルニーズを解決する新規治療薬として、さらには他の網膜疾患や眼科以外の様々な変性疾患などへの応用が期待できます。

京都 iCAP は、KDDD の総額 3.8 億円の第三者割当増資に、みやこキャピタル株式会社 (本社：京都市左京区、代表取締役社長：山口 哲史)、SMBC ベンチャーキャピタル株式会社 (本社：東京都中央区、代表取締役：石橋 達史) および三菱 UFJ キャピタル株式会社 (本社：東京都中央区、代表取締役：安藤 啓) とともに応じ、リードインベスターとして 2 億円の投資を決定いたしました。

株式会社京都創薬研究所 会社概要

設立	平成 27 年 5 月
事業内容	VCP 調整薬を用いた眼難治疾患に対する新規治療薬の開発
本社所在地	京都市下京区
代表取締役	武蔵 国弘



○株式会社幹細胞&デバイス研究所 (SCAD) への投資決定について

SCAD は京都大学物質 - 細胞統合システム拠点 (以下「iCeMS」) の中辻憲夫名誉教授 (設立拠点長) 他が開発した、ヒト iPS 細胞由来の心筋細胞を低コストで分化誘導する技術と、配向ナノファイバーを用いて心筋細胞を成熟化・安定化させる細胞培養技術を基にして、ドラッグスクリーニング用途向けのヒト iPS 細胞由来心筋細胞デバイスを開発・販売する企業です。

細胞と物質を統合してイノベーションを創出する SCAD のアプローチは、京都大学 iCeMS の理念を体現するものです。また創薬プロセスの心毒性評価においてヒト iPS 細胞由来心筋細胞を用いることについて、日米欧を中心に国際標準化への議論が活発化しています。独自のアプローチにより高い機能性 (成熟性) と安定性を持つ高品質な心筋細胞のグローバルな提供を目指す SCAD は、ヒト iPS 細胞由来の細胞製品を本格的な産業応用へつなげる先導的な企業となることが期待されます。

京都 iCAP は、SCAD の総額 2 億円のシリーズ A 第三者割当増資に、SMBC ベンチャーキャピタル株式会社 (本社：東京都中央区、代表取締役：石橋 達史) および株式会社ケイエスピー (本社：神奈川県川崎市、代表取締役：内田裕久) とともに応じ、リードインベスターとして 1.4 億円の投資を決定いたしました。

株式会社幹細胞&デバイス研究所 会社概要

設立	平成 26 年 5 月
事業内容	心臓毒性スクリーニング用の細胞デバイスの開発・販売
本社所在地	京都市下京区
代表取締役	加藤 謙介

○京都大学イノベーションキャピタル株式会社 (京都 iCAP) について

京都 iCAP は、京都大学に属する研究者による知 (研究成果・技術等を含む) を事業化することを目的とする企業 (共同研究企業からのカーブアウトを含む) へ、投資その他の支援を行うことを目的に、平成 26 年 12 月に国立大学法人京都大学の 100% 出資子会社として設立され、平成 28 年 1 月に、京都大学及び民間金融機関の出資を受け、京都 iCAP を無限責任組合員とする 160 億円の KYOTO-iCAP1 号ファンドを、組成いたしました。

京都 iCAP では、基礎研究に強みを持つ京都大学の研究成果を基に、その実用化を志向する大学発ベンチャーに対して、期間 15 年のファンド運用期間を活かして、シード・アーリーステージの段階から長期に亘る支援・出資を行ってまいります。



【お問い合わせ先】

京都大学イノベーションキャピタル株式会社
〒606-8317 京都市左京区吉田本町 36 番地 1
京都大学国際科学イノベーション棟東館 4 階
投資部：楠美公 管理部：木村昌則
TEL：075-753-5303 FAX：075-753-7592
E-mail：info@kyoto-unicap.co.jp